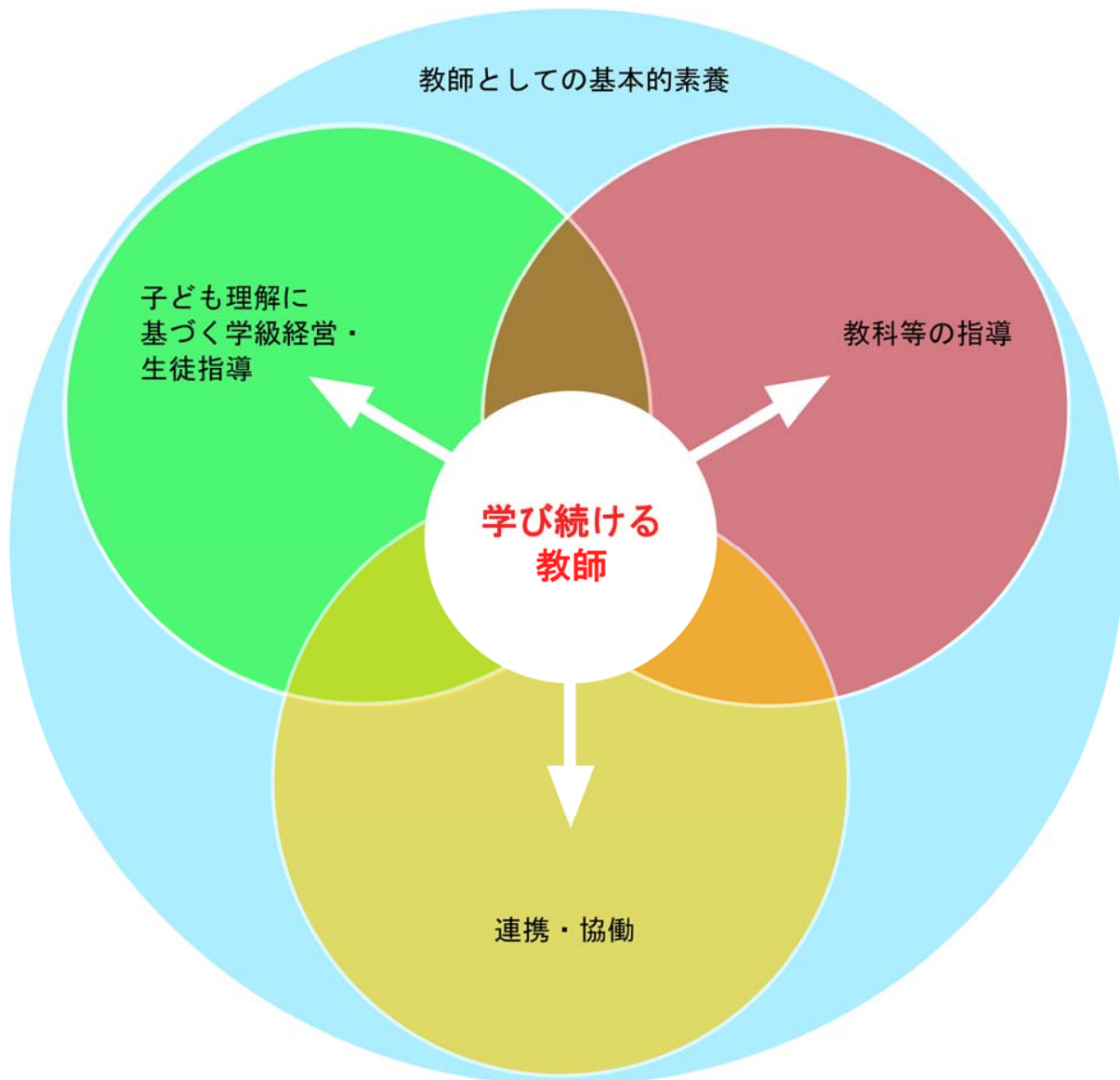


4. 教員養成スタンダード（中学校版）

本学の教員養成スタンダード（中学校版）は5領域から構成されており、次のように構造化されています。

小学校教員と同様、中学校教員も「教師としての基本的素養」を基盤として、「子ども理解に基づく学級経営・生徒指導」、「教科等の指導」、同僚や保護者などとの「連携・協働」という相互に関連し合う3領域の資質能力をバランスよく身につける必要があります。特に「教科等の指導」に関しては、教科や専門分野の特性に応じた資質能力を身につけておくことが不可欠です。そうした資質能力は大学4年間を通して、また教職に就いてからも、絶えず向上させることが求められます。そのためには生涯にわたって「学び続ける教師」となることが大切です。



兵庫教育大学 教員養成スタンダード（中学校版）の概念図

教員養成スタンダード(中学校版)については、「教科等の指導」の領域を教科別に示しています。「教科等の指導」以外の領域については、教員養成スタンダード(小学校版)を参照してください。

【国語】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	A1	国語学習の目的・内容	学習指導要領を通して、国語教育の目的、内容の系統性や各学年間のつながりを理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科における各学年の目標と内容を知っている ・「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解している など
	A2	専門的知識・技能	国語科の内容に関する専門的な知識を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の各領域・事項（「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」領域、および「国語の特質に関する事項」「伝統的な言語文化に関する事項」「書写に関する事項」など）について指導できる専門的な知識を有している ・各分野（現代日本語学、古典日本語学、近現代文学、古典文学、漢文学、書写）に関する専門的な知識を活かして各領域および事項について学習指導を行うことができる など
	A3	生徒に応じた教材分析	学習指導要領に記載されている学習内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載されている学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・生徒の学習実態に配慮して授業の目標を設定し、それに適した教材を選択することができる など
	A4	生徒に応じた教材開発	生徒の実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かした教材開発ができる ・生徒の実態に合わせて既存の教材・教具をアレンジすることができる など
授業方法・指導技術	A5	指導方法の理解と活用	主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉、グループ別指導、個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かして授業を展開することができる など
	A6	基本的指導技術	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明示した構造的な板書を行うことができる ・生徒が深く思考する発問、主体的な学習を促す明確な指示を行うことができる など
	A7	個に応じた指導	学習内容の習熟の程度などに応じて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を通して習熟度に合わせた個別指導を行うことができる ・一人ひとりの得意分野を見つけ、その良さを伸ばすような指導を行うことができる など
	A8	協同的な学習の促進	生徒の多様な思考を生かしながら、子ども生徒の協同的な学習を促すことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な反応を想定して学習指導案を作成することができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
授業方法・指導技術	A9	柔軟な授業展開力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の疑問やつまずきから授業を展開することができる ・ 授業における生徒の予期せぬ反応を大切にして、臨機応変に活かすことができる など
授業計画	A10	指導計画の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、年間指導計画の内容を把握している ・ 年間指導計画と関連して、単元計画、本時案を立てることができる など
	A11	指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導案を作成する際に、生徒の習熟の程度を把握している ・ 単元計画と生徒の習熟を考慮して単元目標や計画を立て、学習指導案を作成することができる など
授業研究	A12	授業研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の反応に耳を傾け、日常的に自らの授業を振り返り、授業の改善に努めることができる ・ 授業後の反省・検討会において、意見を述べたり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善を行うことができる など
学習評価	A13	学習評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・ 教師評価、相互評価、自己評価を学習指導に活かすことができる ・ 診断的評価、形成的評価、総括的評価を活かし、指導と評価の一体化を行うことができる など

【英語】

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
内容理解	B1	英語学習の目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語科における各学年の目標と内容を知っている ・ 英語学習の目的や意義について生徒に説明できる ・ 高等学校における英語科の内容と小学校における外国語活動の内容をおおむね知っている ・ 英語教育の基本的な知識に基づき、発達段階に応じた学習内容（指導要領において求められる学習内容を含む）をおおむね知っている など

【英語】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	B2	英語学習の専門的知識・技能	英語学習の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科の内容について学習指導要領に沿って指導できるだけの文法、語彙における知識と技能を有している ・英語科の内容について学習指導要領に沿って指導できるだけのスピーキング、リスニングおよび発音における知識と技能を有している ・英語力の多面性を理解し、その知識を指導に活かすことができる ・おおむね生徒の状況やニーズに応じた英語を使用できるなど
	B3	生徒に応じた教材分析	教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領において求められる学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・各授業の目標を踏まえ、それに適した教材を選択することができる など
	B4	生徒に応じた教材の工夫と開発	生徒の実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や地域の特色に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる ・英語でのコミュニケーション能力向上のための教材・教具を開発できる など
授業方法・指導技術	B5	指導方法の理解と活用	英語科の内容に即した指導方法について理解し、活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・活動で身に付けさせようとしている英語力の側面を理解している ・自己表現・コミュニケーション活動を取り入れた授業を行うことができる ・音読・文法訳読・コミュニケーション活動などを用いた授業におけるそれぞれの指導上の留意点を知っている ・辞書の有効な使い方を教えることができる など
	B6	基本的指導技術	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解を考えながら、丁寧に板書ができ、カードや資料をわかりやすく提示することができる ・生徒の理解に応じた発問ができる ・生徒の主体的な学習を促すために発問を工夫することができる ・DVDやCDなどのマルチメディア教材を効果的に使用できる など
	B7	個に応じた指導	学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力の多面性の理解に基づき、生徒一人ひとりの得意分野を見つけ、その良さを伸ばすような指導をすることができる ・机間指導を通じて生徒の習熟度に合わせた個別指導を行うことができる ・生徒が英語学習における目標を設定したり、学び方を考えたりする際に、手助けができる ・生徒の状況や必要性に応じた発問、添削がおおむねできる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
授業方法・指導技術	B8	協同的な学習の促進	<p>生徒の多様な思考を生かしながら、生徒の協同的な学習を促すことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な反応を想定して学習指導案を作成することができる ・授業において生徒が良い話し手、良い聴き手となれるような活動を効果的に取り入れることができる ・互いに助け合い、結束力が高まるようなグループ活動を効果的に取り入れることができる など
	B9	柔軟な授業展開力	<p>授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の疑問やつまづきから授業を展開することができる ・授業において生徒の予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる ・必要に応じて、他の生徒にも理解できるように、個人の生徒とのやりとりを活用できる ・授業の目的、生徒の理解に配慮しながらも、時間配分をおおむね調節できる など
授業計画	B10	指導計画の理解	<p>英語科の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画をたて、本時案に反映させることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、英語科の年間指導計画の内容を把握している ・専門的知識を活かしてシラバスを作成することができる ・年間指導計画を確認した上で、学習指導案を作成することができる ・学習指導案を作成する際に生徒の習熟の程度を把握している など
授業研究	B11	授業研究・内省	<p>授業研究・内省の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる ・授業の長所や課題を理解する（気づき）のための知識を有している など
学習評価	B12	学習評価	<p>生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている ・英語力の多面性の発達段階に応じた評価の観点を知っている ・評価の観点を生徒と共有し、授業に活かすことができる など

【社会】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	C1	社会科の目標および内容の理解	社会科の目標および内容と、内容の系統性や各校種・各学年間のつながりを理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の小・中学校各学年の目標と内容をよく知っている ・他教科等における各学年の目標と内容をおおむね知っているなど
	C2	専門的知識と授業実践力	社会科の内容に関連する専門知識を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領において求められている学習内容について、教科書に沿って指導できるだけの知識をもっている ・人文・社会科学において得意分野を有し、その分野についての深い専門的知識をもっている ・専門的知識を活かして、学習指導案を作成することができるなど
	C3	情報処理・活用能力	社会事象を観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用する専門的知識をもっている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会のことに對して、常に興味をもっている ・地域的／時事（社会）的な情報を処理して、オリジナルの図表や説明資料をつくることのできるなど
	C4	地域に結びついた教材の重視	地域に合わせて、教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や地理を説明することができる ・地域の歴史や地理に合わせて、既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができるなど
	C5	日常生活に結びついた教材の重視	現代の社会的課題に合わせて、教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースを通じて、日常的な社会事象に対して常に興味をもっている ・時事（社会）的な情報を活用して、既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができるなど
	C6	生徒に応じた教材開発	生徒の実態や、学校をとりまく地域の特色に合わせて、教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や地域の特色を説明することができる ・生徒の実態や地域の特色に合わせて、既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができるなど
授業方法・指導技術	C7	指導方法の理解と活用	主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導、グループ別指導、個別指導の長所と短所を知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を理解しているなど
	C8	社会科に固有な学習活動・指導法	社会認識を育成するために、系統的学習、問題解決的学習などの指導法を理解し、作業的・体験的活動を取り入れた授業展開を行なうことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野に即した資料を適切に取り扱い授業の展開ができる ・歴史的分野に即した資料を適切に取り扱い授業の展開ができる ・公民的分野に即した資料を適切に取り扱い授業の展開ができるなど

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例	
授業方法・指導技術	C9	基本的指導技術	板書、発問、指示の仕方など授業を行なううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学習を促すために発問を工夫することができる ・板書を工夫して行なうことができるなど
	C10	柔軟な授業展開力	授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、個に応じた指導や生徒の協同的な学習の促進など、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の疑問やつまずきから授業を展開することができる ・授業において生徒の予期せぬ反応を取りあげて、臨機応変に活かすことができるなど
授業計画	C11	指導計画の理解	社会科の年間指導計画の内容を理解し、単元計画や本時案に反映させることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、各教科等の年間指導計画の内容を把握している ・年間指導計画を確認した上で、単元計画・本時案を立てることができるなど
	C12	社会科の単元計画と指導案の作成	社会科に固有な指導法と、社会事象に関する生徒の理解の特徴を踏まえて、単元計画と学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校社会科を踏まえ、地理的分野・歴史的分野の基礎の上に公民的分野を展開するという中学校社会科の基本構造を理解している ・社会認識を育成することができるよう、資料の活用、作業的・体験的な学習、課題解決学習などを活用した単元計画を立てることができる ・学習指導案を作成する際に生徒の習熟の程度を把握している ・単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができるなど
授業研究	C13	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができるなど
学習評価	C14	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・目標評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っているなど

【数学】

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
内容理解	D1	数学学習の目的・内容	学習指導要領の内容の考察を通して、数学教育の目的、学習内容の系統性や各学年間のつながりを理解している ・数学科における各学年の目標と内容を知っている ・数学教育の目的をふまえて、学習内容の系統性を把握している など
	D2	専門的知識・技能	数学科の内容の基礎となる数学の専門的知識・技能を有し、数学科の内容について体系的な数学に裏打ちされた理解をしている ・数学的背景に関する知識をもって、数学科の内容を深く理解している ・高校やそれ以降の数学とのつながりなど、数学科の内容の発展について理解している など
	D3	数学的言語力・表現力	数学的内容について、文字・数式や図表等を適切に用いて、論理的に表現できる ・伝えたい数学的内容の仮定と結論を切り分け、その説明に適切な図表を用いることができる ・数学的考察において、適切に変数を設定し数式により処理して伝えることができる など
	D4	生徒に応じた教材分析	学習指導要領に記載されている学習内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる ・学習内容において生徒のつまずきやすい部分を配慮して教材の準備ができる ・生徒の実態をふまえて、学習内容の本質を伝える教材を用意できる など
	D5	数学的モデリング	日常や社会において見出される事柄から、数学的な題材を見つけ出し、数学の問題として定式化し、考察することができる ・日常生活において数学的事象を見つけようとする態度を身につけている ・日常の事象、社会的問題を中学校の数学と結びつけて定式化し、考察することができる など
	D6	生徒に応じた教材開発	生徒の学習の実態に応じて、知見した数学的題材の教材化を行い、授業を行うことができる ・数値の簡略化、条件の緩和など知見した数学的内容を適切に教材化できる ・知見した数学的内容を、それに関連する単元に適切に結びつけ、単元計画の中に組み込むことができる など
授業方法・指導技術	D7	指導方法の理解と活用	主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる ・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など
	D8	基本的指導技術	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている ・生徒の理解を促すために板書を工夫することができる ・生徒の主体的な学習を促すために発問を工夫することができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
授業方法・指導技術	D9	個に応じた指導	<p>学習内容の習熟の程度などに応じて、個に応じた指導を試みることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導やノート指導によって、生徒一人ひとりの理解度やつまづきを把握することができる ・ 学習の遅れている生徒に対しては補充的な課題を用いて、また、学習の進んでいる生徒に対しては発展的な課題を用いた指導ができる など
	D10	協同的な学習の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの問題に対しても生徒の様々な反応を想定して、協同的な学習を促す学習指導案を作成することができる ・ 目的に応じてグループ別学習や生徒同士のディスカッションなどにより、協同的な学習を展開できる など
	D11	柔軟な授業展開力	<p>授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の反応から数学的つまづきに気づき、適切な説明を加える等の対応ができる ・ 授業において生徒の予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など
授業計画	D12	指導計画の理解	<p>数学科の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前後の学年で扱う内容とのつながりを意識して、年間指導計画を把握している ・ 年間指導計画における位置づけを考えて、単元計画や本時案を立てることができる など
	D13	指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の習熟の実態を把握し、適切な対応策を指導案に反映させることができる ・ 単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる など
	D14	数学科の授業構成原理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成主義など、数学教育の基本的な学習理論を理解している ・ 過度な一般化など、生徒の思考の特徴に注意して、授業計画を立てることができる など
授業研究	D15	授業研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・ 授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など
学習評価	D16	学習評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・ 形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている など

【理科】

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例	
内容理解	E1	理科学習の目的・内容	学習指導要領に関連する自然科学の内容と、内容の系統性や各枝種・各学年間のつながりなどを理解している	・中学校理科における各学年の目標と内容を良く知って、年間指導計画を立てることができる ・小・中・高の理科の学習内容の系統性を理解した上で、年間指導計画を立てることができる など
	E2	専門的知識と授業実践力	理科の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる	・自然科学各分野にわたる自然科学の内容を系統的に、かつ幅広く知っている ・得意分野を持ち、その分野の深い知識と実践力を持つ など
	E3	観察・実験の内容理解	観察・実験の方法や技術に関する専門的な知識を持っている	・観察・実験の操作の原理を説明することができる ・実験材料の適否を判断する専門的な知識がある ・安全な実験と野外活動を行うための基本的な知識を持っている など
	E4	日常生活に結びついた教材の重視	理科の教材となる事物や現象を、日常生活の中に見出すことの重要性を理解している	・理科の学習内容に関連した教材を日常生活の中から見出し、授業で活用することができる ・地域の特性を生かした教材の具体例を挙げることができる など
	E5	生徒に応じた教材分析	学習指導要領に記載されている学習内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる	・生徒の習熟度に即した教材・教具を工夫することができる ・生徒の生活体験に配慮した教材を検討できる など
	E6	生徒に応じた教材開発	生徒の実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	・生徒の実態や地域の特色に合わせて、新しい教材や教具を準備し、授業に取り入れることができる ・野外観察を行うに適した場所を選定したり下見をすることができる など
授業方法・指導技術	E7	指導方法の理解と活用	主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	・学習内容および生徒の実態に応じて、一斉指導・グループ別指導・個別指導を選択し、授業を組み立てることができる ・観察・実験では、演示実験、グループ実験、個別実験の長所と短所について理解し、授業において適切に使い分けることができる など
	E8	理科に固有の指導法	a)「観察に基づいて仮説を立て、実験によって検証する」ことが理科に固有の学習の筋道であることを理解し、学習指導に活用することができる	・「観察に基づいて仮説を立て、実験によって検証する」という指導法について理解し、授業に取り入れることができる ・観察・実験では、対照実験の重要性を理解し、授業に取り入れることができる ・具体的現象から抽象概念の形成への流れを理解することができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例	
授業方法・指導技術	E8	理科に固有の指導法	<ul style="list-style-type: none"> b) 観察・実験を効果的かつ効率的に実施する環境を整備することができる c) 野外学習の重要性を理解し、単元の学習に活用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすく、整理整頓された理科室の整備ができる ・適切な実験器具や装置の整備や、試薬の調製ができるなど ・野外活動の意義や目的を理解し、授業へ取り入れることができる ・野外活動を行う場合の安全性の確認等、事前準備を行うことができるなど
		E9	基本的指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学習を促すために発問を工夫することができる ・生徒の思考に合った分かりやすい板書を行うことができる ・観察・実験を行う上での基本的な指導技術を身につけているなど
	E10	モデルの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルを用いて、中学校理科に関わる事物や現象あるいは、概念を説明することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事物や現象あるいは概念の説明にモデルを利用することができる ・実物とモデルの違いを理解し、授業で適切に使うことができるなど
	E11	柔軟な授業展開力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、個に応じた指導や生徒の協同的な学習の促進をはじめ柔軟な授業展開を試みることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な反応を想定し、予期せぬ反応も大切に臨機応変に活かすことができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる ・生徒の疑問やつまずきから授業を展開することができるなど
授業計画	E12	指導計画の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間のつながりを理解した上で、理科の年間指導計画を把握している ・年間指導計画を踏まえた単元計画や本時案を作成することができるなど
	E13	理科の単元計画	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の固有の指導法と、生徒の理解の特徴を踏まえて、単元計画を立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を取り入れた、実感を伴った学習展開ができる単元計画を立てることができる ・生徒が抱く素朴な科学理解の特徴を踏まえた単元計画を立てることができるなど
	E14	指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画と生徒の実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画を踏まえ、実感を伴った理解を目指した学習指導案を作成することができる ・生徒の生活実態と習熟度を反映した学習指導案を作成することができるなど

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
授業研究	E15	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究の重要性を理解し、積極的に参加し取り組むことができる ・ 研究授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、今後の授業改善に活かすことができる など
学習評価	E16	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・ 形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている など

【音楽】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	F1	音楽科学 習の目的 ・内容	学習指導要領の内容の考察を通して、音楽科教育の目的、学習内容の系統性や各学年間のつながりを理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導における音楽科の目標と内容を理解している ・ 学年毎の指導内容とその系統性について理解している など
	F2	専門的知識と授業実践力	音楽科の内容に関する専門的知識と技能を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の構成要素についての基礎的な知識を獲得している ・ 音楽表現の指導に必要な、自身の演奏（歌唱・器楽）および創作能力を維持・向上させようとしている ・ 基本的な指揮法を習得している など
	F3	音楽的解釈力・表現力	楽曲の内容について専門的な知識を適切に用いて解釈・表現できる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の構成要素を手がかりにして、楽曲を分析することができる ・ 楽曲分析によって得た知見を基に、自分なりの解釈及び表現をすることができる など
	F4	生徒に応じた教材研究	学習指導要領に記載されている学習内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音域や声域に配慮して教材を選択することができる ・ 生徒の音楽経験の個人差を考慮した教材を準備することができる など
	F5	生徒に応じた教材開発	生徒の実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・ 生徒の実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例		
授業方法・ 指導技術	F6	指導方法の理解と活用	a) 主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など 	
			b) 音楽科に固有の指導法の意義を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の演奏状態を瞬時に分析し、表現意図に即した的確な指示を出すことができる ・生徒の実態と楽曲の特性を考慮し、必要に応じて編曲することができる など 	
			c) 表現活動と、鑑賞活動の互いの役割を理解し、単元の学習に活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動の重要性を理解し、表現活動に活かすことができる ・音楽の構成要素を根拠として、音楽を批評する活動の指導をすることができる など 	
	F7	基本的指導技術	板書、発問、指示の仕方など授業を行なううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で丁寧に板書をすることができる ・生徒の主体的な学習を促すために発問を工夫することができる など 	
	F8	個に応じた指導	学習内容の習熟の程度などに応じて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの得意分野を見つけ、その良さを伸ばすような指導をすることができる ・机間指導を通じて生徒の習熟度に合わせた個別指導を行うことができる など 	
	F9	協同的な学習の促進	生徒の多様な思考を生かしながら、生徒の協同的な学習を促すことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な反応を想定して学習指導案を作成することができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる など 	
	F10	柔軟な授業展開力	授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の疑問やつまずきから授業を展開することができる ・授業において生徒の予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など 	
	授業計画	F11	指導計画の理解	音楽科の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の指導内容（歌唱・器楽・創作・鑑賞）を正しく理解している ・音楽科の年間指導計画を基にして、指導計画や本時案を作成することができる など
		F12	音楽科の単元計画	音楽科の固有の指導法と、生徒の理解の特徴を踏まえて、単元計画を立てることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に即した、系統的な指導計画を立てることができる ・題材構成の意義を理解している など

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
授業計画	F13	指導案の作成	単元計画と生徒の実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を作成する際に生徒の習熟の程度を把握している ・単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる など
授業研究	F14	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など
学習評価	F15	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・目標評価と集団評価の違いについて知っている ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている など

【美術】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	G1	美術科学 習の目的 ・内容	学習指導要領に関連する美術の内容と、内容の系統性や各校種・各学年間のつながりなどを理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科における各学年の目標と内容を理解している ・造形美術教育の幼小中の連携を意識し、各校種・各学年の指導内容の系統性を理解している など
	G2	専門的知識と授業実践力	美術科の内容に関する専門的知識と技能を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科の学習指導要領に沿って指導できるだけの基礎的な知識を有する ・専門的知識を活かした学習指導ができる など
	G3	材料や技法の内容理解	材料や道具に関する専門的な知識や技法を理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の目標を踏まえ、その指導に適した材料・道具・場所を選択することができる ・専門的な道具の使用法や関連する知識を理解している など
	G4	生徒に応じた教材分析	学習指導要領に記載されている学習内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領において求められる学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・各授業の目標を踏まえ、それに適した教材を選択することができる など
	G5	生徒に応じた教材開発	生徒の実態や地域の特色に合わせて教材に工夫を加えたり、新たな教材を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・生徒の実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例		
授業方法・指導技術	G6	指導方法の理解と活用	a) 主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人制作・共同制作の長所と短所について知っている ・ 共同制作の指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など 	
			b) 発想を拓げるための導入方法および学習過程における適切な指導について理解し、美術科の学習指導に活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の発想が拓がる導入方法の工夫をすることができる ・ 生徒の意欲を高める適切な指導ができる など 	
			c) 鑑賞教材を取り入れ、表現の目的や内容、方法などについて説明することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の生徒作品や美術作品の鑑賞を取り入れ、生徒の意欲・創造的スキルを引き出すことができる ・ 机間指導で、各生徒の学習過程に着目して適切な言葉かけができる など 	
	G7	基本的指導技術	板書、発問、指示、示範の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい書き順で丁寧に板書をすることができる ・ 生徒の主体的な学習を促すワークシート作りなどを工夫することができる など 	
	G8	個に応じた指導	授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、個に応じた指導ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人ひとりの得意分野を見つけ、その良さを伸ばすような指導をすることができる ・ 机間指導を通じて生徒のつまづきに気づき、個別指導を行うことができる など 	
	G9	協同的な学習の促進	生徒の多様性が活きる協同的な学習活動を促進することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の多様な反応を想定して学習指導案を作成することができる ・ 授業において適宜、制作過程を互いに見せ合って話し合い活動を効果的に取り入れることができる など 	
	G10	柔軟な授業展開力	授業中の生徒の学習状況に応じて臨機応変に、授業を展開することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の疑問やつまづきから授業を展開することができる ・ 授業において生徒の予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など 	
	授業計画	G11	指導計画の理解	美術科の年間指導計画作成の方法を理解し、美術科固有の指導法と、生徒の理解の特徴を踏まえて、題材計画を立てることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、年間指導計画の内容を把握できる ・ バランスのとれた題材系列で、年間指導計画を立てることができる など
		G12	指導案の作成	題材の計画と生徒の実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導案を作成する際に生徒の習熟の程度を把握することができる ・ 題材の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる など

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
授業研究	G13	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など
学習評価	G14	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・造形美術教育の観点別評価について理解している ・生徒の学習過程や作品の記録方法を工夫することができる など

【保健体育】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	H1	保健体育学習の目的・内容	学習指導要領の内容の考察を通して、学習内容の系統性や各校種・各学年間のつながりなどを理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科における各学年の目標と内容を知っている ・課外活動等における関係性を知っている など
	H2	専門的知識と授業実践	保健体育科の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の内容について学習指導要領に沿って指導できるだけの知識を有している ・専門的知識を活かして学習指導案を作成することができる など
	H3	日常生活に結びついた教材	保健体育の教材となる事物や現象を、日常生活の中に見出すことの重要性を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の内容について学習指導要領に沿って指導できるだけの知識を有している ・専門的知識を活かして模範できる技能をもっている など
	H4	生徒に応じた教材分析	学習指導要領に記載されている学習内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領において求められる学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・保健体育の目標を踏まえ、それに適した教材を選択することができる など
	H5	生徒に応じた教材開発	生徒の実態に応じて、教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・生徒の実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など
授業方法・指導技術	H6	指導方法の理解と活用	主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
授業方法・指導技術	H7	保健体育固有の指導法	実技学習の重要性を理解し、保健体育固有の学習方法について理解し、学習指導に活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・実技指導を取り入れた授業の具体例を挙げることができる ・実技の習得を目指した授業における指導上の留意点を知っているなど
	H8	基本的指導技術	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で丁寧に板書をするすることができる ・生徒の主体的な学習を促すために発問を工夫することができるなど
	H9	個に応じた指導	学習内容の習熟の程度などに応じて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの得意分野を見つけ、それを伸ばすような指導をすることができる ・巡視指導を通じて子どもの習熟度に合わせた個別指導を行うことができるなど
	H10	協同的な学習の促進	生徒の多様な思考を生かしながら、生徒の協同的な学習を促すことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な反応を想定して、協同的な学習を促す学習指導案を作成することができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができるなど
	H11	柔軟な授業展開力	授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の疑問やつまずきを活かして授業を展開することができる ・授業において生徒の予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができるなど
授業計画	H12	指導計画の理解	保健体育の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、各教科等の年間指導計画の内容を把握している ・年間指導計画を確認した上で、単元計画・本時案を立てることができるなど
	H13	指導案の作成	単元計画と生徒の実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を作成する際に生徒の習熟の程度を把握している ・単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができるなど
授業研究	H14	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができるなど
学習評価	H15	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・目標標準評価と集団標準評価の違いについて知っている ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っているなど

【技術】

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
内容理解	J1	技術科の目標・内容	技術リテラシーの考え方を踏まえ、技術科各内容の指導事項やその取扱い等、学習指導要領及び同解説書技術編の主な内容を理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・技術科の目標及び技術リテラシーの考え方を説明できる ・「材料と加工の技術」の主な指導事項が説明できる ・「エネルギー変換の技術」の主な指導事項が説明できる ・「生物育成の技術」の主な指導事項が説明できる ・「情報の技術」の主な指導事項が説明できる など
	J2	テクノロジーに関する専門的知識・技術	技術科の各内容に関する専門的な知識・技術、最新のテクノロジーに対する興味・関心を有し、実際に指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工、エネルギー変換、生物育成、情報等の技術に関わる専門的な知識と技術を身につけている ・新しいテクノロジーの動向について興味・関心を持っている など
	J3	教材・教具、題材設定の基礎	技術科の各内容の学習指導において、必要な教材・教具、題材を適切に準備することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るワークシートが作成ができる ・工夫創造力を育む問題解決的な題材を設定できる ・探究的な学習を支援する教材・教具を準備できる など
	J4	教材・教具、題材の改善と開発	生徒の実態や地域の特色、テクノロジーに関わる社会の動向などに合わせて、題材や教材・教具に工夫を加えたり、新しく開発したり、自作することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるテクノロジーの動向を話題として授業に取り入れられる ・生徒の実態や地域の特色、社会におけるテクノロジーの動向によって生じた新たな実践課題等に基づいて、新しい題材、教材・教具のアイデアが考えられ、試作できる など
授業方法・指導技術	J5	学習指導方法の基礎	一般的な学習指導方法の長所と短所を理解した上で、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択したり、組み合わせたりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など
	J6	技術科に固有の学習指導方法	技術的問題解決能力の育成を図る学習指導方法の特徴を理解し、題材の展開過程において適切に活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト法の考え方に基いて技術による問題解決の学習指導の特徴と方法について説明できる ・問題発見・課題設定、構想・設計・計画における学習指導方法を説明できる ・実験・観察、試作・試行・シミュレーションにおける学習指導方法を説明できる ・製作・制作・育成、評価・改善における学習指導方法を説明できる ・実習指導における安全管理について説明できる など
	J7	基本的な授業技術	板書、発問、指示の仕方、ICT活用など、授業を行う上での基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の種類、意図、応答への対応の仕方を説明できる ・板書の仕方、掛図の使い方を説明できる ・ICT活用の仕方を説明できる など

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
授業方法・指導技術	J8	個に応じた指導	学習内容の習熟度や実習の進捗などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況を把握するための評価資料を作成できる ・実習進捗をマネジメントする方法を説明できる ・遅れがちな生徒、進んでいる生徒への対応方法を説明できる など
	J9	協同的な学習の促進	生徒の多様な思考を生かしながら、生徒同士の協同的な学習を促すことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・主な協同的な学習方法の種類と特徴を説明できる ・学習過程におけるグループワークの方法を説明できる ・実習マネジメントにおけるグループワークの方法を説明できる など
	J10	柔軟な授業展開力	授業中の生徒の学習状況や実習状況、発言などに配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や発問に対する生徒の反応を類型化して予測することができる ・生徒の反応に即して展開を分ける学習指導計画が立案できる など
授業計画	J11	指導計画の立案	学習指導要領に基づいて、適切な年間指導計画を立案し、題材設定のもと、単元計画を構想し、本時案に反映させることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の教育課程を適切に配置すると共に、それに基づく年間指導計画作成、題材設定ができる ・設定した題材内で適切に単元構成案を作成できる など
	J12	指導案の作成	年間指導計画や題材設定、単元計画と共に、生徒の実態や学習の進捗・状況を踏まえ、適切な学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・題材及び単元計画における目標の形成関係を理解した上で本時の目標・内容・評価を設定できる ・設定した本時の目標・内容・評価に沿って学習指導案を作成できる など
	J13	学習環境の整備・管理	技術室やコンピュータ室などの特別教室において、生徒の学習を支援する学習環境を適切に構築することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・技術室における環境整備や工具・道具の管理方法について説明できる ・コンピュータ室における環境整備やシステムの使用方法、生徒データの管理方法等について説明できる など
授業研究	J14	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など
学習評価	J15	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に適切な観点別の目標準拠評価の場面、評価アイテム、規準等を設定できる ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法を説明できる など

【家庭】

教員養成スタンダード			自己評価のための具体例
内容理解	11	家庭科学 習の目標 ・内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示されている家庭科教育の目標を理解している 学習指導要領に示されている家庭科教育の内容を理解している 小学校・中学校・高等学校における家庭科教育のつながりを理解している など
	12	専門的知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科の内容について学習指導要領に沿って指導できるだけの知識を有している 家庭科の内容について学習指導要領に沿って指導できるだけの技術を有している など
	13	生徒に応じた教材 分析	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に記載されている家庭科教育の目標と内容について、生徒の学習の実態に配慮して教材の検討・準備ができる 学習指導要領において求められる家庭科教育の目標と内容を意識し、教科書の内容を捉えることができる 各授業の目標を踏まえ、生徒の実態に適した教材を選択することができる など
	14	生徒や地域に応じた教材開発	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・学校・地域の実態や特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる 生徒・学校・地域の実態や特色に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジできる 生徒・学校・地域の実態や特色に合わせて教材・教具を新たに開発できる など
授業方法・ 指導技術	15	指導方法の理解と活用	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている グループ別や個別指導を活かすことのできる授業場면을挙げることができる など
	16	家庭科に固有の指導法	<ul style="list-style-type: none"> 「実践的・体験的活動を通じた学習」が家庭科固有の指導方法であることを理解し、学習指導に取り入れることができる 実践的・体験的活動を取り入れた授業の具体例を挙げることができる 実践的・体験的活動を取り入れた授業の効果と指導上の留意点を挙げることができる など
	17		<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の安全管理に配慮した学習環境を整備できる 火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意して実習の指導ができる など
18	基本的指導技術	<ul style="list-style-type: none"> 板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている 効果的な板書を工夫することができる 発問や指示が効果的になるよう工夫することができる など 	

教員養成スタンダード				自己評価のための具体例
授業方法・指導技術	I9	個に応じた指導	個別作業を行う実習等においては技術の習熟の程度などに応じて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導等を通じて、生徒の進捗状況や習熟の程度を把握することができる ・ 生徒の進捗状況や習熟の程度に合わせた個別指導を行うことができる など
	I10	協同的な学習指導	グループ学習においては生徒の思考や技術習得度を考慮して、学習指導することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の多様な反応を想定して、協同的な学習を促す学習指導案を作成することができる ・ 授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる など
	I11	柔軟な授業展開力	授業中の生徒の学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の疑問やつまずきを活かして授業を展開することができる ・ 授業において生徒の予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など
授業計画	I12	指導計画の理解	家庭科の年間指導計画の内容を理解し、自己の題材計画や本時案に反映させることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後の学年で扱う内容とのつながりを意識し、年間指導計画の内容を把握している ・ 年間指導計画を確認した上で、題材計画・本時案を立てることができる など
	I13	指導案の作成	題材計画と生徒の実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導案を作成する際に生徒の習熟の程度を把握している ・ 題材の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる など
授業研究	I14	授業研究	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的に自らの授業を振り返るとともに、生徒の反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・ 授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など
学習評価	I15	学習評価	生徒の学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標評価の意味と具体的な方法について知っている ・ 形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている など